

福江島号と三日月号

新

潟鳩界史上初となるCH鳩の認定、総理大臣賞全国優勝、GN当日帰り、三賞受賞。そして「究極の夢とされる」GN総合優勝では大会史上最多の記録（*3回）を誇る。新潟鳩界の「生きる伝説」渡辺信男舎は、これら偉大なる軌跡を「三日月系」というオリジナルラインと共に歩んできた。

系統名の由来である「三日月号」（*72年生まれ）——福江GN総合優勝鳩の一族で形成されているが、源鳩的な存在は母方祖父の「39・376958（*ファンブリアーナ系）×66EH4365（*オベル系）」のカップルである。この2羽は渡辺鳩舎の師匠であり、銘血収集家でもあった保刈定氏ではなく、父親は鳩友の前田市郎氏から譲られ、母親は立松金一氏から当時約3万円で購入したものの。配合1年目に新潟鳩界初開催の1000Kで4位入賞を果たしており、ゴールデンカップルとしての片鱗を早くに示したようだ。

渡辺鳩舎にとって「成功の原体験」をもたらした「福江島号」（*70年生ま



れ）もまたこの源鳩カップルから生まれている。「福江島号」は同鳩舎において初めての優勝鳩（*600K）。GNでも自鳩舎初挑戦で総合4位という好成績をもたらすと、その後3年連続福江を飛翔し、CH鳩の認定を受ける。

この「天才鳩」との邂逅によって渡辺鳩舎は競翔家として覚醒。脱サラまでしたエピソードはつとに有名だ。「福江島号」はさらに上のグランドチャンピオ

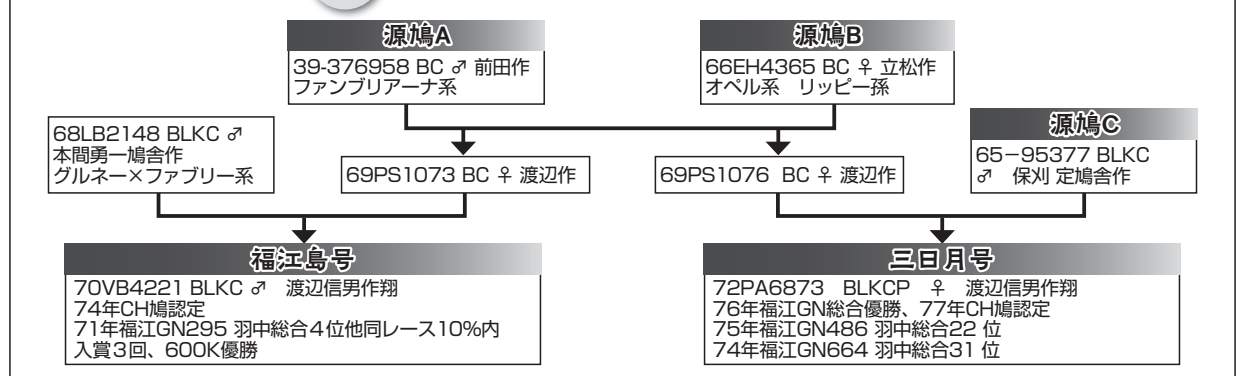
ンの認定、そしてGN総合優勝を求め75年の福江に送り込んだものの失踪…。失意の中で臨んだ翌年のGNを制したのが「福江島号」の従兄弟にあたる「三日月号」だったというわけだ。

「三日月号」は過去2大会で福江GNを5%内入賞しており、CH鳩にも認定。まさに「福江島号」に勝るとも劣らない「天才鳩」であった。なおその愛称は写真をみてわかるように首と背中の方に白い三日月のマークがついていたからとのことだ。

この残されし2羽目の天才鳩は、源鳩カップルの後継種鳩を担い、渡辺鳩舎と共に系統としての物語を紡いでいくこととなる。

（パート2に続く）

「三日月系」の主な系譜 創世記編



入金先ゆうちょ銀行(普通) 記号18520 番号11274081
他銀行から振込 店名858 普通 口座番号1127408
お届け方法第一貨物(支店留め)、ゆうパック、航空便(空港留め)

お気軽にお問い合わせください
携帯電話:090-8788-7403 (モリヤクニアキ)
FAX専用023-687-4583 Eメール:ku.kazama9292@gmail.com

モアクロフト 〒990-2221 山形県山形市風間1323-1 動物取扱業:山形県村保28版第7号 森谷 九二昭 (賛助会員)

三日月サニー号



77年総理大臣賞全国優勝
CH鳩認定

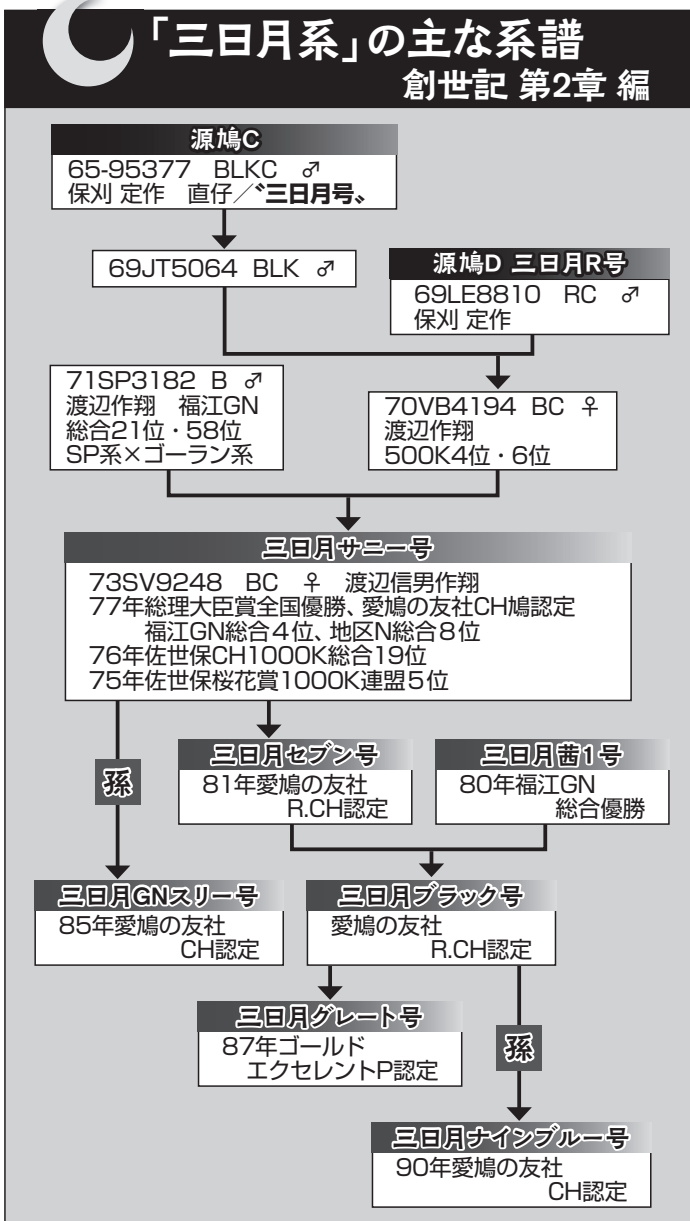
新 潟鳩界史上初となるCH鳩の認定、総理大臣賞全国優勝、GN当日帰り、三賞受賞。そして究極の夢とされるGN総合優勝では大会史上最多の記録(*3回)を誇る。新潟鳩界の「生きる伝説」渡辺信男鳩舎は、これら偉大なる軌跡を「三日月系」というオリジナルラインと共に歩んできた。系統名の由来である「三日月号」がGNを制覇した翌年、渡辺鳩舎にとって3羽目となる天才鳩が出現する。それは、77年に総理大臣賞全国優勝に輝いた「三日月サニー号(*73年生まれ)」である。当時、日

本鳩レース界における最高賞を射止めた成績の全容は、地区N総合8位、福江GN総合4位。他にも佐世保からの1000Kで2回入賞しており、これらの実績から同年に「福江島号」、「三日月号」と同様に「CH鳩」の認定を受けている。

血統は先の天才鳩2羽を生み出した三日月系源鳩カップル「39・376958×66EH4365」——との繋がりには全くなし。しかし「三日月号」の父で師匠である保刈 定鳩舎作「65・95377(*葉月号の直仔)」の曾孫にして、また三日月系第2の筋、かつ栗のラインの祖として後に数々の「CH鳩」を輩出していくこととなる「三日月R号」(*オヘル系×不二系)の孫であった。

渡辺鳩舎曰く「三日月号」が月なら、それに匹敵、いやそれ以上の翔歴を誇るこの鳩「三日月サニー号」は、太陽ということだと名付けられたという。その名の如く、三日月系の「太陽」として燦爛と輝きを放った。

〈パート3に続く〉



茜の三銃士

三日月茜1号、2号、3号

新

鴻鳩界史上初となるCH鳩の認定、総理大臣賞全国優勝、GN当日帰り、三賞受賞。そして究極の夢とされるGN総合優勝では大会史上最多(*3回)を誇る。新鴻鳩界の“生きる伝説”渡辺信男鳩舎は、これら偉大なる軌跡を“三日月系”というオリジナルラインと

ともに歩んできた。

系統名の由来である“三日月号”がGNを制覇してから4年後の80年、大会最多となる27羽の帰還に成功し、自身にとつて2度目の総合優勝を達成する。しかも大会初のベスト3独占、かつ全国のGNで史上初となる当日帰りだった！

日本鳩レース界として歴史的快挙を果たした3羽には、帰還したであるう時間帯(*発見したのは夕暮れ時だった)——夕方を連想させる“茜”の名がそれぞれに冠せられた。総合優勝の“三日月茜1号”と総合2位の“三日月茜2号”は全姉妹(*共に78年生まれ)で2羽とも前年の福江GNを経験。系統は天才鳩——“福江島号”と“三日月号”の祖である源鳩カッブル、“三日月サニ一”を生み出した栗の源鳩“三日月R号”のどちらでもない。並河ラインAに流れる“ロビンソン605号”の近親系だ。しかしこのワンツートの血は、

偉大なる翔歴から“三日月系”と当然の如く融合。“三日月茜1号”自身は、“三日月サニ一”の直仔と交配し、後にCHを多数輩出していく銘ブリーダー“三日月ブラック号”を誕生させている。

その一方で総合3位鳩の“三日月茜3号”は、前述の“三日月サニ一”を生み出した“三日月R号”の孫鳩である。GN当日帰りという鳩飼いなら誰しもが夢見ること日本で初めて実現した“茜の三銃士”。これが決め手となり、新鴻鳩界初の三賞という夢ももたらした。ドリームメーカーたちは、“三日月系”の中で現在も生きている。

三日月茜1号

80年福江GN676羽中当日総合優勝



78HA7133 DC ♀ 渡辺信男鳩舎作翔
全姉妹/三日月茜2号(下掲)
直仔/“三日月ブラック号”(*R.CH鳩認定)
孫/“三日月グレート号”
(*ゴールドエクセレントP)
曾孫/“三日月ナインブルー号”
(*奈良尾GN総合7位、CH鳩認定)

三日月茜2号

80年福江GN676羽中当日総合2位



78HA5375 B ♀ 渡辺信男鳩舎作翔
全姉妹/三日月茜1号(上掲)

→69PS1136 B 手島 一作
“ロビンソン605号”の玄孫
→74KK0473 DC 並河 靖作
“ロビンソン605号”の直仔×
“並河7807”の娘

三日月茜3号

80年福江GN676羽中当日総合3位

78HA7146 B ♀ 渡辺信男鳩舎作翔

→“三日月955号” BC 渡辺信男作翔
R.CH鳩認定 1000K以上5回
→75PE6676 BC 渡辺信男作翔
福江GN総合55位他
“三日月R号”(*源鳩D)の娘
異母姉の娘/“三日月サニ一”
(前回掲)



パート4(*23年10月号予定)に続く

近代三日月系の祖 三日月キング号

日

本最西端にしてGNの聖地である「福江」を舞台に「三日月号」や「三日月茜1号」(※23年2月号)が、そして新潟鳩界で初めて、総理大臣賞を射止めた「三日月サニー号」といった銘鳩を多数輩出した三日月系。80年にGN史上初「当日帰り」、かつ大会史上初ワンツースリーを達成し、形成者・渡辺信男鳩舎の思惑通り、「福江」で自力を示す一方で、この80年代には多数のマラトンAPが誕生していった。その最たるものが、85年に当時超長距離レースのAPとして、日本鳩界最大のステータスを誇っていた雑誌社による「グランドチャンピオン」に認定された「三日月キング号」であろう。

78年生まれこのオス鳩は翌春に1000Kを経験し、2歳鳩で900K、さらに福江GNにも参加すると総合で63位に入賞(※10%内)。「三日月キング号」の強かなフィジカルが伺えるエピソードだ。その後2年間はGP(※900K)を飛翔し、いずれも10%内に入

三日月キング号

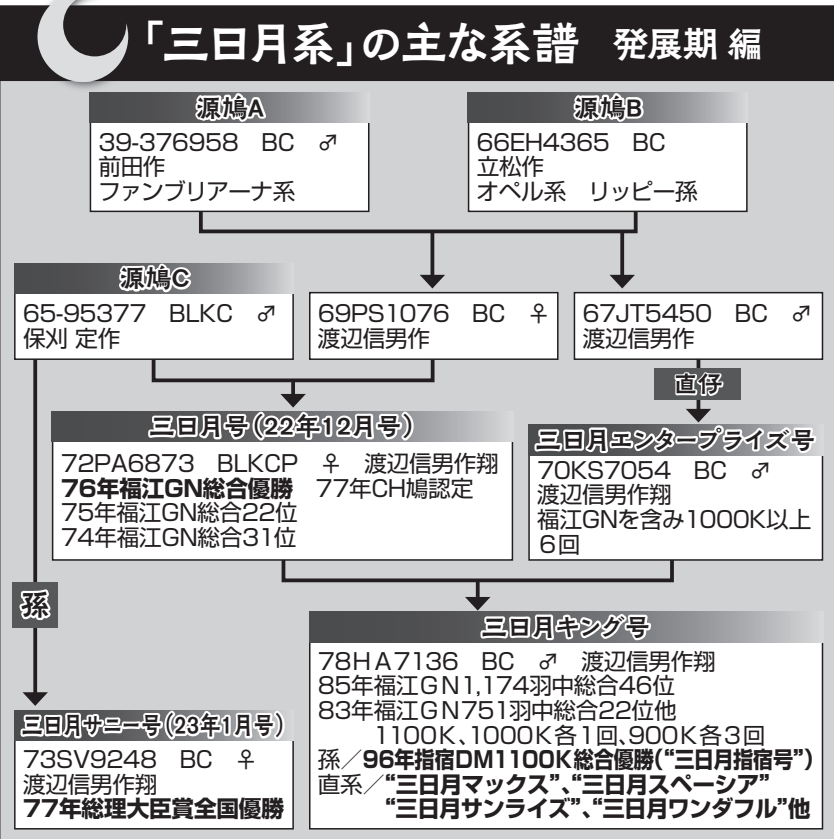
78HA7136 BC ♂
渡辺信男鳩舎 作翔
85年G・CH認定
82年CH鳩認定



賞。「グランドチャンピオン」の挑戦権である「CH鳩」に認定される。5歳のとき再び福江に参戦し、総合22位という好成绩を収めるも認定ならず…。翌年はパラミックスパレンデミックのため2000Kで終了した。そして85年、福江で2度目5%内に記録し、三度目の正直——三日月系初にして唯一となる「グランドチャンピオン」に輝いた。鳩レースとはブラッドスポーツである。この「三日月キング号」もこの法則にのっとり、父親が10000

K以上6回飛翔のマラトンCH、そして母親は自身初の福江GN総合優勝にしてCH鳩認定の「三日月号」だ。AP×AP——しかも三日月系源鳩カップル「39・376958(※ファンブリアーナ系)×66EH4365(オペル系)」の孫掛けであり、まさしく血統の成果以外の何物でもないだろう。

また80年代であったが、後半には渡辺鳩舎自身バーンアウトとなり、成績が大きく低迷…。90年代中盤に演出される復活劇をもたらしたのが「三日月キング号」だった！そして種、血としてあまたの活躍鳩を輩出し、近代三日月系における「祖」として君臨することとなる。〈パート5に続く〉



〃元祖GN〃を制したドリームメーカー

—三日月指宿号

総

合優勝ならまだしも「本命」GNでもシングルを外すことまで常態化——。90年代初頭、三日月系形成者・渡辺信男鳩舎に訪れたスランプは深刻なものであった。この自身にとって初となる暗黒期に終止符を打ったのが、前

あり、渡辺鳩舎自身もまた然り。鳩少年時代からの夢——「初帰還〃総合優勝」というドラマチックなものになっただけに前述の評価は当然であろう。

紹介した「三日月キング号」である。渡辺鳩舎待望にして「唯一」の「グランドチャンピオン」認定鳩とあって、直仔を種鳩用に多く残していたようだが、これらが次々と覚醒。とりわけ96年に福江GN4

実質「元祖GN」までも制し、「GN男」、「長距離男」としての名声は画竜点睛となった。「三日月指宿号」かの如く、「三日月号」、「三日月キング号」という正統な流れを紡ぎブリーダー、血として開花したことは、言うまでもない。

ペアーで果たした2つの広域長距離レースでの総合優勝は、「三日月系復活の象徴となった。」
うちパーソナルレースとして開催された指宿ドリームナショナルを制した「三日月指宿号」は、渡辺鳩舎の「鳩人生」において思い入れが非常に強い1羽となった。「指宿」のある鹿児島県は新潟鳩界にとって一度も成立できなかった因縁深いGN禁断の地（*68年に1回開催・不成立）で

三日月指宿号

93FB02065 S ♂
渡辺信男鳩舎作翔
96年指宿ドリームナショナル1100K総合優勝
“三日月キング号”
(G. CH認定)
の孫

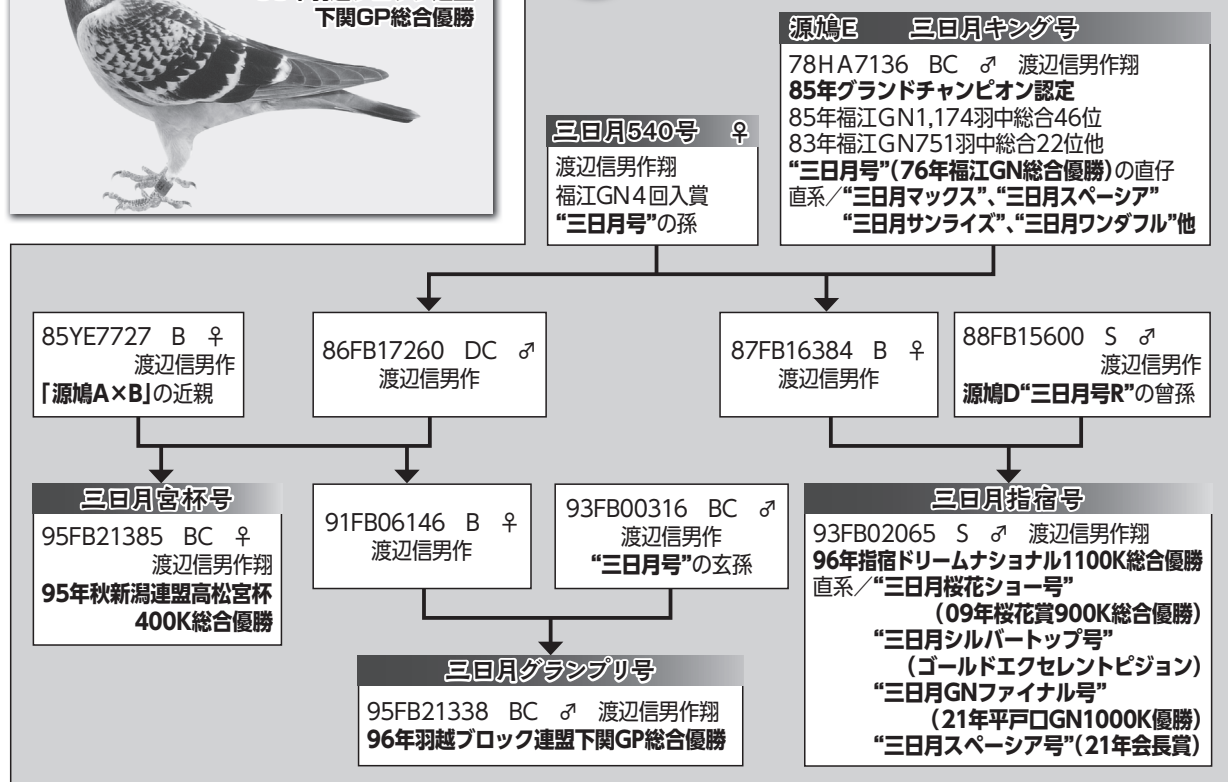


三日月グランプリ号

95FB21338 BC ♂
渡辺信男作翔
96年羽越ブロック連盟
下関GP総合優勝



「三日月系」の主な系譜 発展期 編



GN男として完全燃焼の証 三日月サンライズ号

より遠くへをスローガンに発展してきた日本鳩レース界において、協会最長レースであるGNを制することは最大の名誉であり、また競翔家にとって、究極の夢だ。三日月系形成者・渡辺信男鳩舎もこの一戦を制するために鳩人生の全てを賭してきたといつて過言ではない。それは系統名が76年に果たした自身初のGN総合優勝鳩と同じであることから充分伺えよう。

渡辺鳩舎は前述の「三日月号」、そして80年の「三日月茜1号」で2度のGN制覇を早くに体験。前人未踏の3度目を最大のモチベーションに「福江(70年〜85年)」、「奈良尾(87年〜90年・01年)」、「平戸(91年〜00年)」と時代、時代の最長レースに挑む——も90年代初頭の暗黒期などもあり、実現されることはなかった。

そして06年に自身にとって24年ぶりにGNでベスト3入り、かつ連盟ではトップに！ 勢いに乗って挑んだ07年、宿願であった3度目の総合優勝を果たす。2羽とも近代三日月系基礎鳩である「三日月キング号(23年12月号)」の直系であり、

ドリームメーカーである「三日月サンライズ号」には、「三日月サニール号」と「三日月茜1号」の血もダイレクトに流れており、三日月系の集大成ともいえる血統構成だ。

——俺は待っていたぜ。

石原裕次郎の楽曲に掛けたこのフレーズは、渡辺鳩舎の27年分の心境を現すものとして、鳩界誌に綴られている。

そして「GN男」として完全燃焼へ——。画竜点睛となった三日月系と形成者の物語は、最終章に入っていく。

〈24年10月号予定のパート7に続く〉



三日月サンライズ号
05FF08513 BC ♀
渡辺信男鳩舎 作翔
07年羽越ブロック連盟
奈良尾GN1100K総合優勝
総理大臣賞に替わる協会賞
北部地区3位

